

沼津朝日

平成三十年六月二日(出朝刊)

今年は写楽の大首絵を描く

桐陽高等学校祭のアルミ缶アート

桐陽高(飯田瑞穂校長)の学校祭「桐陽祭」が一日から高島本町の同校で行われ、生徒会が中心となって校地南側駐車場で作したアルミ缶アートが、きょう二日、午前十時から午後三時まで一般公開される。

アルミ缶アート制作は生徒会の主導で平成七年に始まり、以来、校舎の建て替えなどで休止した期間を除いて続けている。



生徒達が完成させたアルミ缶アート

生徒会の呼び掛けで四月下旬にアルミ缶集めを開始し、五十四万五千個が集まった。アルミ缶アートでは缶の色をそのまま利用するため、回収時に色分け

をして、不足している色の缶を持ってくるよう呼びかけるなど、缶集めにも一苦労。デザインは、生徒会役員でアイデアを出し合った中から選び、今

年は江戸時代の浮世絵師、東洲斎写楽による役者の大首絵を模写。桐陽祭のテーマ「謳華」の文字、平成の元号が最後となるのを記念して「平成三十年」の文字を入れて校章を描いた。

並べる作業は、男女のバレーボール、バスケットボール、テニス、卓球、女子ソフトボール、サッカー各部の部員と生徒会役員ら約九十人が中心となって五月三十、三十一日の二日間にわたり、小雨が降る中で行った。キャンバスとなる駐車場にチョークで下描きし、空き缶が倒れないように水を入れたり、配色も考えて横向きに置いたりして缶に

プリントされた色やデザインをアートに取り入れ、大きさは縦十八センチ、横十センチに仕上げた。

また、観覧のために校舎四階の教室に展望室を設け、過去の空き缶アートの写真なども展示。例年、三千人程が来場している。

使用後の空き缶は換金し、普通コースの一年生が東日本大震災被災地研修の一環として今月十四、十五日に福島県を訪れ、被災地に植樹する河津桜約五十本の費用に充てる予定のほか、発展途上国の子ども達に対する教育支援にも役立てる。